

ふるさと再発見

～重源上人の里みてある記～

(三) 岸見の石風呂



岸見の石風呂

佐波川を南へと下り、防府市と境を接する岸見の西側の山裾に、茅葺の家があります。これが国指定重要民俗文化財の「岸見の石風呂」で、重源上人が東大寺再建の用材を搬出するにあたり、職人たちの疲労回復の

ために造られたもので、地元の人々により四季折々の農作業の合間に、石風呂を焚き伝承して今日に及んでいます。

古文書によると「山々木屋所へ往来の工匠寒疾こうしやうかんしつに当てられ、これに悩むもの多ければ、上人諸人の苦悩見るに忍びず所々に温室を創つくしてこれを救いたまうの一つなり。昔より幾星霜いくせいそうを経るといえども、開基かいきの本願ここに朽ちず、入室するもの正月四日より晴雨をいわず諸所より来り、その数挙げて数えがたし、腰抜け足なえ疾癩諸病しつしゃくの療養とし来る」とあります。

石風呂内部の広さは、幅235cm、奥行350cm、高さ180cmあり、野面石のづらいしを組み上げ、天井には大石でふたをして石室を造り、正面に幅65cm、高さ70cmの焚口兼用の入口があります。

入浴方法は、内部で柴木を焚いて石室を熱し、残り火をかき出し、室内に濡れ藁むしろを敷きその上に乾いた筵ござを置き、さらに現在は莫塵もじんを敷いて、着衣のままで心静かに入り、しばらく横たわって体を温めます。

岸見の石風呂では、毎年旧暦六月五日の重源上人の命日に「石風呂開山忌」を勤め、必ず石風呂を焚いてお祭りしています。こども、「重源の里」の一拠点として、公園や駐車場も整備されました。

徳地には、石風呂だけでも三十三か所あり、現在も完備しているもの、半壊状態や消滅したものもありますが、柚野地区には、国指定史跡の野谷の石風呂など五か所、八坂地区は八か所、出雲地区には十二か所、島地地区は五か所、そして串地区が三か所と、徳地全域に散在しています。

なお、山口観光コンベンション協会徳地支部が「とくち石風呂まつり」を毎年三月に開催しています。この時は、岸見同様の歴史がある二の宮の石風呂や、重源の郷や国立山口徳地青少年自然の家あやのに新たに作られた石風呂も参加して体験入浴ができます。その他、重源上人ゆかりの史跡巡りも楽しめます。

(法光寺 東堂 松尾宗茂しゅうも)